

保護者の皆様

県立市ケ尾高等学校
校長 田中 俊穂

令和 6 年度第 1 回「生徒による授業評価」集計結果について

令和 6 年 7 月、本校生徒に対し「生徒による授業評価」を実施しましたので、結果を報告いたします。

1 授業評価の概要と結果

(1) 評価項目

大項目	設問	小項目
授業の在り方に ついて	1	毎時間の授業や単元のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

(2) 評価

(1) の項目について次の 4 段階で評価を行った。

- 4 かなり当てはまる 3 ほぼ当てはまる
2 あまり当てはまらない 1 ほとんど当てはまらない

(3) 集計と処理

教科ごとに集計を行い、小項目の評価が「4 かなり当てはまる」の割合を算出した。教科ごとに「4 かなり当てはまる」の割合が **最も高い項目には塗りつぶし太字、最も低い項目には下線斜字**で明示した。

(4) 各教科の小項目の評価「4 かなり当てはまる」の割合

設問	1	2	3	4	5	6	7
国語	38.0%	48.0%	46.2%	<u>34.9%</u>	47.5%	38.9%	38.4%
地歴・公民	31.9%	36.6%	35.5%	<u>29.7%</u>	38.1%	34.0%	39.0%
数学	34.3%	32.5%	41.3%	46.2%	<u>31.0%</u>	38.1%	44.0%
理科	33.4%	30.3%	33.4%	35.4%	<u>29.1%</u>	30.7%	36.0%
保体	42.4%	43.8%	47.4%	46.8%	43.4%	43.4%	<u>41.7%</u>
芸術	42.0%	41.8%	37.6%	43.1%	37.6%	33.9%	<u>33.5%</u>
外国語	34.6%	38.1%	34.4%	35.7%	34.1%	<u>32.2%</u>	37.0%
家庭	49.9%	46.9%	49.6%	<u>46.6%</u>	49.3%	46.9%	48.1%
情報	40.3%	42.5%	45.2%	<u>39.5%</u>	41.9%	42.7%	40.0%

※塗りつぶし太字は教科内で最も割合の高いもの、下線は教科内で最も割合の低いものを表します。

各教科の分析と改善の手立て

	分析	改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・設問2が最も高く48.0%であった。探究的な課題を各単元に設ける指導が進みつつあるものと考えられる。知識を受容するだけでなく、意見を共有する時間を多く取り入れることによって、横断的な視座を身に付けられているものと考えられる。 ・設問4が34.9%と、教科内では最低値となった。対話や情報共有等の思考力に重点を置きながらも、自身で考え活用できる知識として体得できる授業や目標の設定もより実施する必要があると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の中での言語活動を通して、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるような「対話的な学び」の機会をさらに増やしていく。 ・単元ごと、授業毎において、学習のねらいの提示や授業の振り返りを確実にすることによって、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の機会をさらに増やしていく。
地歴 公民	<ul style="list-style-type: none"> ・「かなり当てはまる」、「ほぼ当てはまる」を合わせた値で、設問6の数値が最も高かった。昨年度、改善の手立てとして挙げた知識定着をはかる小テストやワークの実施により、生徒の「課題の解決方法を考える」機会が充実した結果と考えられる。 ・一方で「かなり当てはまる」、「ほぼ当てはまる」を合わせた値で設問1の数値が最も低かった。教科の特性上、問いに対して考える時間や生徒のまとめ・発表活動にかかる時間が限られていることが原因であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下の取り組みを行うことで設問1の数値向上を図る。 ・ペアワークやICTを活用することで、授業時間を圧迫することなく、生徒が与えられた問いに対して、既知の知識を活用しながら主体的に考え、授業内容を振り返る機会を充実させていく。 ・各教科間で、単元ごとに基軸となる問いを確認し、生徒に提示することで学習内容を明示する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・設問4と設問7の項目で高い数値が出ているが、逆に設問2と設問5の項目の数値が低い。これは昨年度と同様の傾向であり、演習等を通じ自分自身で考え、理解もできている実感があるものの、それを互いに共有することが出来ていないと感じているようである。授業中に考え方を共有する時間はそれぞれの教員が設けているものの、解答の最終的な結果を確かめるに留まり、過程や考え方等の深い共有ができていないものと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身に問題の解説をさせるなど、一人ひとりがどのような考えから解を導いたのかを共有させる時間を増やしていく。授業の時間には限りがあるため、自分自身で考える間、他者と考えを共有する間の選別を更にかけて行う必要がある。また、大学共通テストの類題など、思考過程がより問われるような演習問題の扱いもより多く取り入れていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 「設問7、授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。」において「かなり当てはまる」と回答した生徒の割合が他の項目と比較して高かった。一方で「設問5、他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」において「かなり当てはまる」と回答した生徒の割合は他の項目と比較してやや低かった。設問7で肯定的な回答の割合が高いことから、生徒は授業で学んだ知識を活用できていると思われる。設問5を改善することで、他者の意見を取り入れ、学んだ知識を多面的・多角的な視点で考えられるようになれば、学習の質がより高まると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「設問5」の改善に向けて、自分の考えを他者と共有する機会を多く設けられるよう心がける。その際、生徒が自ら考え他者と話し合うことで多様な視点を取り入れ、学習理解を深められるような良質な問いを教員が設定できるよう工夫する。また、他者の考えをもとにさらに自分の考えを深める時間をつくるなど、考えて共有した後の工夫もしていく。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・設問3【単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。】が「かなり当てはまる」の高い割合になっている。しかし設問7【授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。】が「かなり当てはまる」の割合は低くなっている。 このことから授業内で、【設問3】について生徒が自ら考えをまとめたり、課題解決方法について考えさせる課題や練習を、教員が設定することができていると考えられる。【設問7】については、教科の特性から保健であれば、1時間ごとに単元が変わったり、体育であれば、種目が変わったりすることから、「かなり当てはまる」の割合が低くなっていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設問7の改善策として、保健では単元が違っても共通している内容があるのでそこを強調して扱う。また他の教科で扱う内容もあるので、そこに授業内で触れていく。 体育ではその年度の指導で終わるのではなく、昨年度に学んだであろう内容を活用しながら段階的な指導を行っていく。1学年は中学生の内容を踏まえた指導を行う。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目において、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が高くなっており、授業に対する生徒の満足度は高いと考えられる。 ・各課題において、自ら考え、解決していく力を発揮している実感のある内容が取り扱われていると考えられる。 ・課題間の繋がり意識が薄く、できるようになった実感を持つのが難しい状態にあると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技教科の特性を活かし、引き続き自ら考え表現する課題構成、授業展開を実践していく。 ・課題間の繋がりについて、過去に行った課題内容から、どのような点を新たな課題に活用して取り組むことができるかを丁寧に伝えていく。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・設問2の数値が昨年度同様、今年度も最も高い数値となった。このことは、授業の中で必要となる知識を習得させ、自力で課題に取り組ませる時間が十分に設けられ、他者とのコミュニケーションを通して、自らの考えを拡充させる機会を授業内で取り入れている結果である。 ・設問6の数値が低い傾向にあるのは、講義やワーク等での時間が多く、自らの考えをまとめる時間が十分に設けられていない結果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中での言語活動を通して、他者とのコミュニケーションの中で伝達能力を高め、自らの考えを拡充することや自らの考え方を深めたりすることができるような「対話的な学び」の機会をさらに増やしていく。 ・講義内容の精選により、自らの考えを振り返り拡充させる時間を確保する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目において肯定的な評価の割合が高く、特に設問1「学習のねらいを示したり振り返る機会」に関しては、約8割の生徒から「当てはまる」の評価を得られた。本校教科目標である「生活のなかから課題を見出し解決する能力を身に付ける」という点を意識して授業を行っており、毎時間の振り返りとして「実生活で活かせること、何が課題か」を考えさせている成果が得られたものとみられる ・設問4「授業の中で身についたことやできるようになったことを実感できた」は他の設問と比較して「かなり当てはまる」の割合が若干低くなっているが、学習分野が「人生・家庭」であったためと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も日常生活と関連させながら、課題を意識させる授業展開を継続しておこなう。 ・1学期は家族や将来設計の単元であったため、自分事として学習に取り組めたことが評価できるが、将来のことなのでできるようになったか実感できるのは難しい。今後学習する衣生活・食生活・住生活・消費生活などの単元において、より身近に感じられるような授業内容を研究し展開していく。
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての質問で「かなり当てはまる」・「ほぼ当てはまる」を合わせると85%を超えていた。特に質問1・4以外は90%を超えており考えさせる授業ができていたのではない。 ・自由記述では、実習のスピードが速いという指摘があった。2学期以降の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の授業内容が知識、技能が多くなるためグループワークの学習内容を取り入れることを考えていきたい。 ・単元の目標をもっと明確に説明してから内容に入っていく。 ・課題に取り組む時間を増やしていく。

2 教科別・項目別評価「4 かなり当てはまる」の割合



